

2025 年度 名古屋学芸大学健康・栄養研究所 研究・実践報告書

2026年 3月26日提出

提出者（主任研究員） 安達 内美子

1. 研究・実践の課題（テーマ）	
<p style="text-align: center;">栄養教諭を中核として学校教育活動全体で食育を推進するための 食に関する指導の全体計画の在り方とその活用</p>	
2. 主任研究者名（主任研究員）	安達 内美子
3 - 1. 共同研究者名 （研究員、客員研究員）	美濃加茂市立蜂屋小学校 栄養教諭 中島 祐佳
3 - 2. 本研究所員以外の共同研究者名 （職名）	
4. 研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要	
<p><b>【目的】</b>                  栄養教諭が食に関する指導の全体計画を活用して、校内の食育を組織的、計画的に行えるようにカリキュラムマネジメントした時の、教職員の食育に対する意識の変化を明らかにする。</p> <p><b>【仮説】</b>                  連携を強化するために必要な「目標の共有」や「明確な教育活動の設定」のために全体計画を活用することは有効</p> <p><b>【方法】</b>                  美濃加茂市立蜂屋小学校において、教職員と連携強化のために、「目標の共有」「明確な教育活動の設定」「食育に関する知識の共有」の3つを重点として、栄養教諭が校内の食育をカリキュラムマネジメントした時の学級担任の食育に対する意識について、質問紙調査並びにフォーカスグループインタビューを1.～5.のとおり行った。その解析を行う。</p>	
1. 令和6年度の食に関する指導の全体計画の作成	
<p>校内会議で検討し、令和6年度（2024年度）の食に関する指導の全体計画を作成した。指導の目標が共通理解しやすいように、食に関する指導の手引―第二次改訂版―に記載してある様式例に、重点指導項目を設定、重点項目に関連した指導内容を強調させるなど、一部様式を変更した。</p>	
2. 食育に関するアンケート調査の実施①	
<p>美濃加茂市立蜂屋小学校で令和6年度学級担任をもつ教職員に対し、2024年4月に食育に関するアンケート調査を実施した。</p>	
3. 教育活動の実施	
<p>美濃加茂市立蜂屋小学校の令和6年度（2024年度）の食に関する指導の全体計画にもとづいて、教育活動を行った。栄養教諭は食に関する指導の全体計画が円滑に運営できるように教育活動をコーディネートした。</p>	
① 計画的、継続的な指導の場として、月に1回栄養教諭と教職員が連携して食育を行う「食育の日」を設定した。食育の日の実施は、栄養教諭は指導計画の立案、指導資料の作成を行い、学級担任が朝活の時間に各クラスで指導を行った。	
② 栄養教諭から教職員に対しての情報提供として、月に1回、おたよりを配付した。内容は、	

該当月ごとの食に関する指導の全体計画に記載してある内容の抜粋、栄養教諭と教職員が食育に対する知識を共有するための情報提供、食育の日の実施に対するポイント等とした。

#### 4. 食育に関するアンケート調査の実施②

美濃加茂市立蜂屋小学校で令和6年度学級担任をもつ教職員に対し、2024年7月と2025年3月に2.と同じ内容のアンケート調査を実施した。

#### 5. 学級担任を対象としたフォーカスグループインタビューの実施

2024年8月と2025年1月に美濃加茂市立蜂屋小学校において、学級担任を対象にフォーカスグループインタビューを実施した。

#### 6. 解析

回収した食育に関するアンケートは、解析を行う。Wilcoxonの符号付き順位検定およびフリードマン検定を用いて、実践前、中間（7月）、実践後（3月）の教職員の食育に関する意識や行動の変化を比較する。

フォーカスグループインタビューは、データ分析方法には、質的統合法(KJ法)を用いる。ICレコーダーで録音したインタビュー内容から逐語録を作成し、ラベル化、カテゴリー化をして、発言内容の系統を整理して解析を行う。

#### 【結果】

##### 学級担任を対象としたフォーカスグループインタビュー（2025年1月）

目標の共有に関しては、「目標共有の実態」および「目標共有の方法」に関する意見が多く挙げられた。教職員向けに月1回配付するたよりに継続的に目標を記載し、共有を図る方法を試みたが、「目標はわからない」「たよりは読むが、目標が記載されていたことを認識していなかった」といった発言が多く、十分な共有には至らなかった。目標を効果的に共有するためには、委員会活動や学校教育活動と関連付けた食育の目標を設定することや、ICTの活用など、提示方法を工夫することが有効であるとの意見がみられた。

明確な教育活動の設定については、「食育の日の内容」「食育の日の後の児童の様子」「食育の日の後の担任の心情や行動」に関する意見が多く挙げられた。「クイズは楽しく参加できた」という発言から、クイズを導入した栄養教諭作成の動画を活用した食育は、児童の関心を引く内容であったと考えられる。2024年7月のフォーカスグループインタビューにおいて「内容が簡単であった」との指摘を踏まえ、栄養素や食品に関するやや専門的な内容を加えたところ、「内容はちょうどよかった」「児童が関心をもてる内容だった」といった発言がみられ、肯定的な評価が多く得られた。また、動画視聴後に児童が考えをアウトプットする場面を設定したことで、「朝ごはんは野菜を食べていないから、食べないといけないと思った」という児童の発言がみられるなど、動画の内容を実生活と関連付けて捉える姿も確認された。さらに、実施に対する教職員の負担感は7月に引き続き「ない」と回答した者が多く、その後の教室において担任が指導しやすくなったとの意見もみられた。

食育に関する知識の共有については、「今後期待する情報」および「情報共有の方法」に関する意見がみられた。教職員は、児童に指導する際に活用できる食に関する知識を、栄養教諭から提供してほしいという要望をもっていた。「たよりの発行時期を職員の打合せ前に設定すると、その場で目を通すことができる」や、「授業の指導資料が保存されているフォルダに、教科と関連した資料があると活用しやすい」といった具体的な意見も挙げられており、教職員が目にしやすく、活用しやすい形で情報共有を行う方法を検討する必要があると考えられた。

**【考察】**

『連携を強化するために必要な「目標の共有」および「明確な教育活動の設定」のために全体計画を活用することは有効である』という仮説の下、栄養教諭が全体計画を活用して校内の食育をカリキュラムマネジメントした際の教職員の意識について調査した。

その結果、「目標の共有」については、教職員との十分な共有には至らなかった。目標は、全体計画作成時に児童の実態や目指す児童の姿を踏まえて検討・決定されたものであったが、全体計画やたよりに記載するのみといった受動的な共有方法では、教職員が目標を意識することは難しいことが示唆された。

一方、「明確な教育活動の設定」については、栄養教諭の専門性を活かして作成した食育動画を定期的に視聴する教育活動を位置付けたことにより、児童の食に関する知識や関心の向上が図られた。また、教職員にとっても、その後の指導を行いやすい環境の整備につながった。

以上のことから、全体計画作成時に、栄養教諭が中核となる食育の場を明確に位置付け、継続的かつ確実に実施していくことは、校内における食育のカリキュラムマネジメントを推進する上で有効な手立ての一つであると考えられる。全体計画作成時には、「いつ」「どこで」「どのように」栄養教諭が校内の食育に関わるのかを具体的に検討し、確実に実施していくことが必要であると考えられる。

**【今後の予定】**

食育に関するアンケート調査について解析を行う。

5. 研究・実践成果の公表・活用（実物や参考資料を添付する。著書、論文、報告書、教材、学会発表、講演会・シンポジウム等での発表、大学教育への活用、マスメディアでの紹介等を含む。）

6. 研究・実践に関わる経費の支出者  
（複数の場合は主な支出者を記入する。  
計画書と異なる場合は明記する。）

- 中西学園
- 公的に採択の審査を経た研究費等  
具体的に：
- 指名による受託費等  
具体的に：
- その他

7. 今後の研究・実践成果の公表や活動予定

栄養教育学関連学会誌への論文投稿予定

8. その他、研究所への要望やコメント